

いじめ防止など、子ども同士の豊かな人間関係づくりのために、ピア・サポートを取り入れている学校は少なくありません。本校でも4年前に教師主導でのピア・サポート活動を取り入れました。現在は、生徒会書記局が主催し、生徒主導のピア・サポート集会に移行しています。新入生が入学したばかりの4月にピア・サポートに取り組むことで、中1ギャップ防止にもつながり、いじめや不登校防止の基盤となる生徒同士のより良い人間関係が、生徒自らの手で作り上げられています。

## 1 ピア・サポート集会

今年度最初の土曜授業の4月15日、授業参観の一環として、ピア・サポート集会を実施しました。

生徒会書記局が考えたメニューは二つ。

一つ目は、「あいこじゃんけん」です。じゃんけんをしてあいこになったらハイタッチして、次のじゃんけんの相手を探すもので、学級学年の枠を超えて、できるだけ多くの人と交流できるよう工夫されたものでした。入学して中学校に慣れていない新1年生にとっては、他の小学校から来た同級生や、見知らぬ顔の上級生と触れ合ういい機会となりました。

二つ目は、「名画づくり」です。学級ごとに作られたグループを中心に、生徒会書記局が用意した



テーマに基づいて、グループのメンバー全員で一枚の切り絵を作成するものです。切り絵を作成するときには、話したり相談せず無言で行います。前の人作業がどのような意図で行われたかを理解し、次の人にどのようにつなげるのかを配慮しながらの作業はなかなか大変です。この作業をとおして、周りとの協調し、協力する大切さを学び取りました。



## 2 生徒会書記局の意識の高まり

教師主導の活動から、生徒主体の活動にしていくために、生徒会書記局の意識の高まりが

必要でした。

昨年度初めて実施した生徒会主催のピア・サポート集会の成功を受けて、函館中部高校で開催されたどさんこ☆子ども地区会議に本校生徒会書記局が参加してきました。子どもたちが、いじめのない明るい学校づくりに向けた取組について交流し、いじめの問題について考えるために、北海道教育委員会が毎年開催しているものです。いじめ撲滅に向けての実践発表では、児童会や生徒会が中心となつての実践例が紹介され、貴重な勉強をしてきました。参加した書記局の生徒たちは、「ピア・サポート集会」を年1回ではなく、放課後等を利用して、小集団で年に数回行い、お互いのことを理解する輪を広げていけないだろうかという、熱い思いをもって帰路につきました。



この思いが、「生徒会企画 ピア・サポート・タイム」の企画と運営・実践につながりました。



1・2年生の各学級から31名が集まり、「ニギニギじゃんけん」や「目パッチリアウチ」などコミュニケーションを高める活動を行いました。「この活動で人との交流の仕方を学ぶことができて良かった」「他学年の人ともコミュニケーションがとることができてよかった」などの感想がでており、参加した生徒たちは、より良い人間関係の作り方を学ぶことができました。

この成果が、今年度のピア・サポート集会につながりました。集会をきっかけに現在は、大野中学校生徒290名、凛とした空気漂いながらも、和気あいあいとした学校になっています。

### 3 今後に向けて

「いじめ防止のためにできることを」が中1ギャップ防止につながり、さらには学校の雰囲気を変えた「ピア・サポート」。今後も、生徒会が中心となつて、生徒自ら、いじめのない、よいコミュニケーションであふれる学校をつくるよう、この活動を継続してほしいと思います。